

第33回知床五湖登録引率者審査部会 議事概要

日時：2020年11月24日(火) 14:00～16:20

場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

出席：渡邊・山田(環境省)、吉澤(北海道)、南出・吉田(斜里町)、佐藤(ウトロ自治会)、古坂(自然公園財団)、岩山・寺田・松田(登録引率者)、岡崎(知床ガイド協議会)、新村(知床斜里観光協会)、秋葉・村上(知床財団)

概要：

今年度の利用調整地区及びヒグマ活動期の運用結果、新規養成研修・登録引率者研修の実施状況について報告があった。また、今年度の登録試験結果について、承認された。

来年度以降の知床五湖の運用に係る検討スケジュールが事務局より示され、2021年度の新規養成者の募集について議論が行われた。引き続き検討を進め、次回審査部会にて新規養成募集の方向性を決定することとした。

登録引率者の研修制度や登録試験のあり方、再整備後の小ルートツアー運用等について、知床ガイド協議会から提案があり、議論が行われた。各種課題について、引き続き審査部会で協議を進めることとした。

議事：

【報告事項】

- (1) 知床五湖利用調整地区の運用結果について
- (2) 知床五湖登録引率者研修の実施結果について

【決議事項】

- (3) 知床五湖登録引率者 登録試験の結果について

【協議事項】

- (4) 2021年度以降の知床五湖運用について
- (5) その他

議事概要：

【報告事項】

(1) 知床五湖利用調整地区の運用結果について(説明／知床財団・秋葉)

資料1-1 2020 年度 知床五湖利用調整地区の運用結果について(速報)

資料1-2 2020 年度 ヒグマ活動期の運用結果について(詳細)

資料1-3 新型コロナウイルス対策及び新規の取り組み状況について

参考資料1 知床五湖園地の来園者数について

参考資料2 知床五湖における新型コロナウイルス感染症対策について

今年度の利用調整地区の立入認定実績やヒグマの目撃状況、ヒグマ活動期の運用結果、五湖園地全体の来園者数、新型コロナウイルスの影響に伴う運用の変更点のほか、今年度より新たに開始した各種取組みの実施結果について、知床財団より報告があった。

ヒグマの出没状況について(●:意見、✓:まとめ)

- 斜里町全体のヒグマの目撃状況はどうか。また、地上遊歩道での 10 月のヒグマ目撃件数が多かった要因は何か考えられるか。(渡邊)
 - 斜里町全体のヒグマの目撃件数は、現時点では昨年の 1/3 程度となっている。また、10 月地上遊歩道でのヒグマの目撃が多かった要因として、五湖のドングリの実りが他のエリアと比較して良い傾向にあったことが考えられる。(村上)

(2) 知床五湖登録引率者研修の実施結果について(説明／知床財団・秋葉)

資料2 新規養成・引率者研修の実施結果について

参考資料3 2020 年度 新規養成研修カリキュラムの特例措置について

今年度の新規養成研修及び登録引率者研修の実施結果と課題、新型コロナウイルスの影響による研修内容の変更点とその対応について、運営を担当する知床財団より報告があった。

新規養成研修の課題について(●:意見、✓:まとめ)

- 今年度の新規養成研修の実施にあたっては、新型コロナウイルスの影響による集客難などによって、従来通りの研修を行うことができなかった。コロナ禍が本格化する前に募集をしていたこともあり、事後的に運用を変更せざるを得ない状況であった。(秋葉)
- 現行の新規養成カリキュラムは、通常通り制度が運用されることを前提として構成されているため、来年度もコロナ禍が継続するのであれば、実施は困難と考えている。(秋葉)

【決議事項】

(3) 知床五湖登録引率者 登録試験の結果について(説明／北海道・吉澤)

資料3 知床五湖登録引率者 登録試験の結果について

参考資料4 2020年度 登録2次試験の免除規定における特例措置について

今年度の登録引率者登録試験の結果と新型コロナウイルスの影響による二次試験免除規定の変更について、事務局より報告があり、原案通り承認された。

登録試験の受験状況について(●:意見、✓:まとめ)

- 一次筆記試験の受験資格を得た33名のうち32名(新規養成者2名を除く)が試験を受験したとの記載があるが、1名は試験を辞退したとの認識で間違いないか。(渡邊)
 - 今年度の登録引率者34名のうち、全ての研修課程を修了し受験資格を得たのは31名である。その31名のうち1名は試験を受験しなかった。(秋葉)

【協議事項】

(4) 2021年度以降の知床五湖運用について(説明／環境省・渡邊)

資料4 今後の知床五湖運用に係る検討スケジュールについて

今年度の会議スケジュールと五湖の運用に係る検討項目について、事務局より共有された。来年度以降の新規養成募集の取り扱いや今後の方向性について中心的に議論が行われ、次回の審査部会において来年度の取り扱いを決定することとした。

次年度へ向けた新規養成者の募集について(●:意見、✓:まとめ)

- 今年度の新規養成研修の実施状況や課題を踏まえ、来年度の新規養成者の募集について登録引率者より意見をお聞きしたい。現時点で募集の要望は聞いているか。(渡邊)
 - 募集要望の声は聞いていないが、要望の有無は別として新規養成者の募集は行うべき。(松田)
 - 自身の事業所では現時点での予定はないが、募集は継続するべき。(岩山)
 - 昨年度は比較的早い時期に募集が行われたため、応募したくても間に合わなかった人がいた可能性がある。そういった人のためにも今回も募集を行うべき。(寺田)
 - 同意見である。募集は継続するべき。(岡崎)
- 近年の応募状況を鑑みると、年度が変わる直前まで募集を行っても、応募人数が多すぎて対応しきれないといった懸念は少ないかと思う。(松田)
 - 昨年度比較的早い時期に募集を締め切った理由は、養成研修の運営体制の兼ね合いである。現在は研修の運営業務を外部委託しており、年度末直前まで応募の有無がわからない状態では業務発注をする判断ができないため、便宜的に早い時期に設定させていただいた。(渡邊)
 - 以前は年度末直前まで募集を行っていたと記憶しているが、運営体制が変わったということか。(松田)
 - 以前は事務局が直接研修の運営を担っていたが、外部に運営を委託する形式となったために募集期間を変更させていただいた経緯がある。(渡邊)

- 今年度運営業務を受託した。現在の養成研修の内容は、必ずしも外部委託しなければならない、というものではない。外部委託を前提とする必要はない。（秋葉）
- とりあえず募集を行った方がよい、という状況ではないと考えている。研修の運営実務を担当した立場から、今年度については非常に無理な運営を強いられた印象が強い。今回のように新型コロナウイルスによる変則的な状況が続くようであれば、現状のまま新規養成研修を継続することは困難である。仮に継続するのであれば、カリキュラムの内容や運営体制の見直しが必要である。（秋葉）
- 登録引率者になりたいという新規養成者の要望に応えるべく、相応の労力や熱意をもって運営実務を担ってきた。一方で、養成者の一定数が研修をこなすことができずに途中で研修を辞退する近年の傾向に加え、新型コロナウイルスの影響で計画通りに研修を行うことが難しい状況である。現状のままでも今後も運営実務を担っていくことは困難であり、責任をもって業務を履行することは難しいと考えている。（秋葉）
- 今年度2名の新規養成者が研修を途中で辞退しているが、自主引率研修の機会が十分に担保されていないことが原因となったのか。（渡邊）
 - 新型コロナウイルスの影響と自己都合の両面が要因と考えている。研修制度が充分機能しなかった面があることは確かである。（秋葉）
- 来年度も新型コロナウイルスの影響があると想定され、その中で研修機会が十分に担保されない懸念がある。また、今年度のような特例措置を継続することができるかも不透明であると考えている。新型コロナウイルスの情勢に合わせ研修の質やハードルを下げるようなことは制度の趣旨に反しているため、選択肢として考えてはいない。そのため、現状のままだと募集の休止という判断を取らざるを得ないと考えている。（渡邊）
 - 今年度の幌別川での事案のように危険個体の迅速な捕獲が社会情勢的に困難な状況の中で、危険個体が 2 頭ほどいると考えられる。ヒグマに関する安全管理の観点から、新規養成研修を簡略化してしまうことは、リスクを高める結果に繋がる恐れがある。（村上）
 - 今年度については、研修の質や量を下げることがないよう様々な措置や支援を講じて研修を行った。現行の研修カリキュラムは既存のツアー運用や引率者の協力を基盤に構成されているため、新型コロナウイルス等の影響でこれらの担保がない状態で応募を受けてしまい、その結果スムーズに養成を行うことができないのではないかと懸念している。（秋葉）
- 引率者の研修受入協力の担保がないという懸念について、今年度においては新型コロナウイルス対策の観点から受入が難しかったという状況もあったかと思う。ただ、受入における基本的な考え方として、人の命を預かってヒグマの生息地を引率する養成者を引率者が気軽に受け入れるべきではないと考えている。受け入れるのであれば、時間をかけ丁寧に説明を行う責任や養成者の人間性を慎重に見極める責任が生じる。これらの過程を無くして安易に養成者を受け入れることは、寧ろ無責任な対応だと思う。（松田）
 - 養成者は人の命を預かっているため、研修のハードルは維持する必要がある。募集については別の取り扱いとなるため、来年度も継続すべきと思う。（新村）
 - 来年度の状況が不透明な状態で募集を行うべきではない。また、道内の感染者数が増加している現状や、地域内での PCR 検査体制が整っていない現状においては、感染している可能性がある養成者を引率者が安易に受け入れるべきではないし、現実的に受け入れることが難しいと思う。このような現状を考慮し、新規養成の募集は一度休止するべきである。（佐藤）
- 現段階では養成研修を計画通り進められる見込みがない状況にある。養成者の要件や研修カリキュラムの

ハードルを下げるべきではないという点については、一同共通の認識だと思う。仮に募集を行うにしても、研修の実施時期を柔軟に変更することや感染症対策を付け加えるといった対応は必須になると考える。（秋葉）

- ✓ これまでの議論経過を踏まえ、登録引率者や関係者から意見や協力をいただきながら、新規養成のあり方や来年度の募集の方向性について、引き続き検討を進めることとしたい。（南出）

(5) その他

知床ガイド協議会より登録引率者制度や試験制度における課題の提起と改善案の提案があり、議論が行われた。また、登録引率者より知床五湖の管理運営体制に係る意見、植生保護期における引率者のあり方に係る意見等が挙げられた。意見や課題の取り扱いについては、引き続き審査部会で検討することとした。

登録引率者制度の現状課題について(●:意見、✓:まとめ)

- 近年、登録引率者の数が減少していることに加え、若い世代のガイドが定着しないことに危機感を持っており、登録引率者制度や試験制度がこれらの原因の一つになっていると感じている。（岡崎）
 - 提出された提案書の内容については、知床ガイド協議会の総意として捉えてよいか。（渡邊）
 - 知床ガイド協議会の会員には確認、了承をとっている。（岡崎）
 - 過去に制度や運用ルールが何度か変更されてきている経緯や、ヒグマの出没状況が毎年異なる点などを考慮し、毎年試験を行なうこととなっていると記憶している。ただ、今後地域や関係者との協議の中で試験制度を見直す必要があるとなれば、検討していく可能性も考えられる。また、近年のヒグマの出没状況などを鑑み、いずれはヒグマ活動期の運用ルールも見直す必要性も出てくるかと思う。（渡邊）
 - 経験豊富な引率者の尽力が、円滑な現場運用に大きく寄与している。現行の試験制度については、単に慣例に倣って続けていくのではなく、合理的かつ簡略的に行える部分については柔軟に変更を行うべきと思う。また、仮に現行の試験制度に大きな課題があるとのことであれば、なるべく詳しく提起していただいた上で、改善を検討する必要がある。（秋葉）
 - ガイドが定着せず全体の引率者数が増えていないという近年の課題と、現行の試験制度が直接関連しているとは考えにくい。（秋葉）
 - 新規養成募集の要綱に「毎年試験を受ける必要がある」旨が記載されているため、養成を希望する者の応募意欲に負の影響を与えていると考えられる。これらの影響を軽減するため、継続して引率登録することで試験の負担が軽減される仕組みとするべき。（岡崎）
- ✓ 既存の引率者や関係者からも広く意見を聞きつつ、試験の受験頻度などを含めた試験制度全体のあり方について、今後も検討を進めていきたい。（渡邊）
- ✓ 知床ガイド協議会からの提案をもとに、次回審査部会に向けて登録引率者制度や試験制度に関する課題を整理していくこととしたい。（南出）

再整備工事後の小ループツアー運用について(●:意見、✓:まとめ)

- 小ループツアーの所要時間の関係から、ヒグマ活動期の小ループツアーに限定した上で、再整備後に廃道となる予定の Q～R 地点間のルートを引き続きツアーで利用させて欲しい。（岡崎）

- これまで関係者と協議を重ねながら、新規ルート設計や工事を進めてきた。現在、廃道となる箇所撤去作業を進めており、来年度小ループツアーで利用するとすると再度整備を行わなければならないため、難しい。(吉澤)
- ✓ 知床ガイド協議会の要望については、現時点では再整備工事の関係から対応が難しいとの判断になるが、今後も取り扱う必要があるとのことであれば、次回審査部会にて引き続き議論していくこととする。(南出)

五湖運用に係る意見 (●:意見、✓:まとめ)

- 制度開始からこれまで何年にもわたり登録引率者が安全に現場運用を行ってきた実績を考慮し、植生保護期にヒグマの出没による地上遊歩道の閉鎖があった際に、一般の利用者の立入が再開される前に先行して引率者のガイドツアーが立ち入り、現地状況の確認や情報提供を行うといった運用を行うことはできないか。(岩山)
- 植生保護期における地上遊歩道でのヒグマ出没後の現地調査体制について、現地調査が完了し遊歩道の利用を再開できる状況であったにも関わらず、再開の判断を行う当日の担当管理行政と連絡がとれないとの理由で速やかに利用が再開されない事例があり、これによって利用者の散策機会を損ねてしまっている。非番の他管理行政に再開判断をしてもらうなどして、改善していただきたい。(岩山)
 - 現行の運用においては、当日の担当管理行政と連絡がとれない場合、非番の他管理行政と連絡をとることで速やかに判断を行うこととしている。当該事例は、管理行政3者いずれとも連絡がとれなかったために再開判断が遅れたという状況であったのか。(渡邊)
 - 詳しい状況は不明だが、管理行政と連絡がとれないために再開を判断することができず、管理行政と連絡がつくまで五湖 FH の担当者がしばらく待っている状態であったと記憶している。いずれにしても、円滑に判断いただくようお願いしたい。(岩山)
- 五湖の冬期閉園時期について、現在の閉園日である 11/8 以降も多くの利用ニーズがあると思う。開園期間を延ばすことはできないか。(岩山)
 - 元来から五湖の水道施設が脆弱であることに加え老朽化も進んでいることから、凍結の恐れがある時期には開園できないとの理由で現在の閉園時期に設定された経緯があったと聞いている。施設状況が改善されなければ、閉園時期を遅らせることは難しいと考える。(渡邊)
 - 冬期閉園後もトイレや水道施設の閉栓作業に数日を要する状況であり、今以上に閉園時間を遅く設定すると水道施設の凍結や損傷を招くリスクが高い。そういった理由から、以前の冬期閉園時期(11月下旬)を早めてもらうよう、施設の維持管理者として要望した経緯がある。(古坂)
 - 冬期閉園時期については、閑散期でも五湖を楽しみに来訪する利用者が一定数いるため、水道施設の改善などによって開園期間を延ばすよう努力してほしい。(寺田)
- 知床五湖 Web サイトの登録引率者の紹介ページ内で、引率者の評価(評価指数を星マークの数で表示)を公開することは不適切ではないか。現在掲載されているツアー参加者のアンケート結果のみで十分だと思う。(岩山)
- 植生保護期に登録引率者が無線機を携帯しているが、引率者に求められている役割や責任が不明確な状態になっているため、改めて検討してほしい。(岩山)

- 植生保護期にガイドツアーを行う引率者を対象にご協力いただいている試行段階であるため、有事の際に責任を求めるものではない。最低限のルールはあってもよいと思う。（渡邊）
- 有事の際に刑事責任を問われなかったとしても、制度で運用している以上道義的責任は生じるはずであり、引率者がやるべきこと、やらなくても良いことといった最低限のルールは整理するべきである。（松田）

その他意見等（●：意見、✓：まとめ）

- 知床ガイド協議会や登録引率者から挙げられた各種課題や意見については、必要に応じて適切に検討すべき。関連して、引率者からその他意見があればお聞きしたい。（秋葉）
 - 知床ガイド協議会からの提案書にある要望項目については、いずれも直ちに改善を行うことが難しい内容であるため、一つずつ論理的に整理していく必要がある。現行の試験の状況を見ると、一部形骸化しているものが見受けられるため、合理的に簡素化していくべきだと思う。一方で、近年のようにヒグマの行動傾向が変化している状況においては、試験に追加で組み込むべき要素もあり、順応的な試験や研修の運用が一層必要となってくる。（松田）
 - ガイド技術研鑽のため海外で関連する研修に参加したい、といった意見も今後出てくる可能性があり、このような要望に柔軟に対応できるよう、試験の受験要件となる引率者研修の参加免除制度の見直しも必要になると思う。（松田）
 - ガイドが定着（事業が安定）できるか否かについては、社会的な背景も大きく影響している。試験制度の改善のみで定着が進むようになるとは思えず、知床のガイドのあり方や仕組みを発展させていかなければ、状況は大きく変わらないと考える。また、五湖FHスタッフについても同様に、業務自体に魅力があるか否かではなく、自身がスキルアップしながらも安定した収入を得られるようになれるか否か、という点を重視している人材が一定数いるはずであり、経験豊富なスタッフらがそのような人材が定着できるようサポートしていく必要がある。（松田）
 - 新規のガイドが定着しない点は課題と思う。個人的には、ガイドと五湖関係者間の信頼関係が薄くなってきていることに危機感を感じており、利用者の立場であるガイドと管理サイドの考え方が乖離してきているようにも感じる。現場の人間やガイドの意見などを積極的に取り入れるようにしてほしい。（寺田）

以上